

◎ 美術館情報

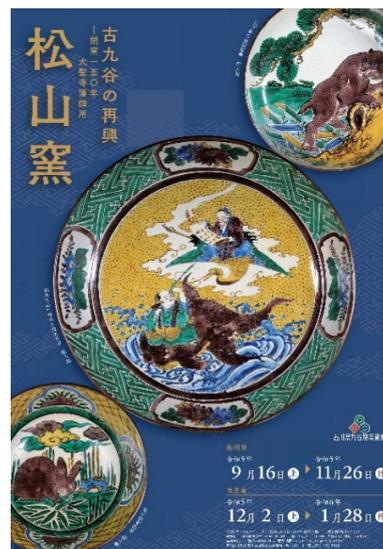
最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 石川県九谷焼美術館【石川・加賀】(<http://www.kutani-mus.jp/ja/>)

12月2日(土)～2024年1月28日(日)

特別展: 閉窯 150 年「大聖寺藩御用 松山窯」<後期>

松山窯(嘉永元(1848)年～明治 5(1872)年頃)は再興九谷の一つである。大聖寺藩が江沼郡松山村(現在の加賀市松山町)において、山本彦左衛門に命じて藩の贈答用品を主に作らせた藩の御用窯である。世にこれを御上窯(おかみさま)といった。松山窯閉窯の 150 年という節目に、名品を一堂に展示します。



2. 五島美術館【東京・世田谷区】(<https://www.gotoh-museum.or.jp/event/next/>)

12月13日(水)～2024年2月12日(月・振)

企画展: 【館蔵】茶道具取合せ展



展示室に当館茶室「古経楼」「松寿庵」「富士見亭」の床の間原寸模型をしつらえ、館蔵の茶道具コレクションから約 70 点を選び展示(会期中一部展示替あり)。懐石道具・炭道具のほか、織田信長(1534～82)を中心とした武将や大名ゆかりの茶道具の取合せを展覧します。特集展示として懐石道具を中心とした茶の湯の漆芸を同時公開します。

3. 兵庫陶芸美術館【兵庫・丹波】(<https://www.mcart.jp/exhibition/e3503/>)

12月9日(土)～2024年2月25日(日)

特別展: 令和の新収蔵品展—「コジン」からの「オクリモノ」—

兵庫陶芸美術館は、縄文土器から近代にわたる兵庫県産の古陶磁を中心とする田中寛コレクションを収蔵品の母胎とし、平成 17 年(2005)に開館しました。開館以後は、古陶磁に、作り手の創造性、芸術性が発揮された現代陶芸をくわえ、「車の両輪」としてコレクションの充実を図ってきました。開館時に 1,046 件であった収蔵品は、令和を迎えた時点で 2,364 件に、そして令和 5 年(2023)には 3,274 件と増え続けています。この 19 年に及ぶ収集によって、古陶磁は田中寛コレクションでは充分ではなかった分野が補われ、現代陶芸は国内外の著名作家や、新進気鋭の若手作家の作品も徐々に充実しています。作品収集は、購入・寄贈などでおこなっています。近年の傾向をみると、寄贈が大きな比重を占めるようになってきています。当館のコレクション、とくに古陶磁は、作られてから永い年月を経ています。現代陶芸をふくめ、いずれも「コジン」が手にし、そして賞玩し、多くの「コジン」が愛蔵してきた逸品です。収蔵しているコレクションは、まさに幾多の「コジン」からの「オクリモノ」といえます。本展では、令和に新たに収蔵した作品のうち、ロットで現代の私たちにとどけられた 4 つのコレクションと、兵庫県内各地の古陶磁を紹介します。

